

No.86

すくらむ

2016.11.1 発行



福井県特別支援教育センターは、県立病院関連四機関の4階にあります。

P1 巻頭言

障害者施策転機の年に…

県健康福祉部障害福祉課長 森本雅裕 氏

P2

教育現場における合理的配慮の提供について
～各地区のケースから～

P3

授業のユニバーサルデザイン化の取組
～福井市六条小学校の事例紹介～

P4

読み書きに困難がある子どものための
教材紹介

巻頭言 障害者施策転機の年に…

県健康福祉部障害福祉課長 森本雅裕 氏

今年も残すところ2か月となりましたが、今年は障害のある方々に
とって、大きな転機となる年でした。4月からは、障害を理由とする差
別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）が施行され、5月
には制度充実を図るため、障害者総合支援法と発達障害者支援法の改正法
案が成立しました。さらに、9月にはブラジルでパラリンピックが開催
され、2年後の「福井しあわせ元気大会（全国障害者スポーツ大会）」などに向けて、障害者ス
ポーツへの関心が高まり、障害者への理解が進んだところです。



まず『障害者差別解消法』についてですが、県では、法の内容について、新聞・広報誌への掲
載や、事業者への説明会等を行うとともに、3月に県職員の「対応要領」を策定し徹底を図って
います。また、7月には、障害者団体や行政機関等からなる「県障害者差別解消支援地域協議
会」を設置・開催し、障害者への理解促進、相談事例や合理的配慮の内容の情報共有を進めてい
くこととしました。今後、12月の障害者週間などにおいて普及啓発を図りながら、関係機関と
ともに差別解消に努めていきます。

次に、『発達障害者支援法』については、教育現場での対応推進、就労定着の支援、関係機関
の緊密な連携などの改正が行われました（8月施行）。特に、教育関係は、「個別の教育支援計
画の作成、個別の指導に関する計画の作成の推進等」が新たに規定されています。県では、幼児
期から、学齢期、就労までの一貫した支援を行うため、現場で共通して使える独自のツール「子
育てファイルふくいっ子」を導入し、関係機関において支援が行われています。学校での活用も
進んでいますが、今後、特別支援学校、特別支援学級だけでなく、小中学校の通常学級や高等学
校に在籍する気がかりな生徒に対して、さらに活用を進め、教育部局との連携を深めていき
たいと考えています。

教育現場における合理的配慮の提供について

小・中学校における合理的配慮提供の具体例を紹介します。



小学3年生 Aさん（書字障害・ADHD診断あり）の例

宿題を毎日、祖母と頑張ってきたAさん。3年生の2学期頃から、宿題に時間がかかるようになり、祖母が促しても宿題を拒むようになりました。学校でも、ノートの写しを嫌がり、担任が声をかけても、机上にノートを出さない日が見られるようになりました。担任は支援の見直しが必要ではないかと学年主任に相談をもちかけました。そこで、支援会議を開き、以下の配慮を行うことにしました。

①宿題の書きの負担を減らすために

- 既存の漢字ドリルの代わりに「下村式となえて書く漢字ドリル」を活用する。
- ノートに写す必要のある計算式は、母親が書き写す。



②ノートの写しについて

- 読めない字は書き直しを促すが、字形が崩れている程度のものは許容する。
- 連絡帳の書き浅らしがないか、担任が帰りに確認し、加筆で補う。
- 週1時間、個別指導の時間を設けて、ポメラ（キーボード入力ができるメモ専用機）使用の練習をする。

【配慮後の様子】

- 漢字の宿題を提出できるようになりました。
- ポメラを使って、読んだ新聞記事の要約文を作成できるようになりました。
- 板書を全て写すことは難しいですが、自分が印象に残ったキーワードをノートに書くようになりました。



中学1年生 Bさん（診断なし）の例

小学校の頃から、書くことの苦手さが見られたBさん。中学校入学後、小さな文字を限られたスペースに書き込む機会が増えたことから、苦手意識が増しました。また、授業のスピードが速くなったこともあり、板書を写すことも追いつかず、あきらめてしまう様子も見られるようになりました。そこで、担任や教科担任が参加して支援会議を開き、以下の配慮案が出されました。

- 数学と英語のワークやプリントを拡大コピーし、記入欄を大きくする。
- 数学では、計算スペースを別紙に設け、答えのみをワークに記入する。



【現在の様子】

本人の要望を聞きながら、本人にとって取り組みやすい用紙の大きさを探っているところです。適切な大きさが定まってきたら、ミニテストや定期テストにおいても、用紙の拡大を行っていく方針です。

英語は小集団での活動を始めました。活動の中心を、読むことや話すこと、選択肢の中から選ぶことなどにして、書く活動は最小限にしています。



学校が、本人、保護者と十分に話し合いの場を持ちながら、よりよい合理的配慮が提供できるよう努めていくことが大切です。また、配慮の見直しを定期的に行っていくことが有効です。そのことを個別の教育支援計画・指導計画に明記して、支援につなげていきましょう。

UD実践校の紹介！！ 福井市六条小学校



昨年度より、学校全体で授業のユニバーサルデザイン化（以下UD）に取り組む六条小学校の実践をご紹介します。

昨年度は、板書の工夫、写真や絵などの具体物の提示、ペア・グループ学習の導入など、視覚化、共有化の工夫に全学級で取り組みました。その成果として、今やるべき事が明確になった、具体的な形で考えられた、自分の考えや思いを伝えることができたなどの児童の変容が見られました。本年度は、各学級における児童の実態に合わせた授業づくりに踏み込み、実践に取り組んでいます。それは、

「気がかりな児童に焦点を当てて授業を考えることであり、その子たちにとってないと困る支援を講じることで、他の児童にとってもより楽しく分かりやすい授業になる」という特別支援教育の視点と言えます。



7月に、特別支援学級の授業公開と授業研究会が行われました。全校に学級紹介をするため、在籍児童がipadでビデオ撮影を行う授業です。スピーチが苦手な児童には、ipadの撮影係や大好きなゲームを説明する係など、別の活動も準備されており、児童の実態把握をもとに、つまずきを予想した授業展開がいくつか考えられていました。また、ipadでの撮影を授業に取り入れたことで、いろいろな先生から認めてもらえ、児童の自信に繋がっていました。そして、誰でも取り組みそうな簡単な課題や興味のある課題から授業を始める工夫をしたり、児童の興味関心に応じて様々な教材・教具を準備したりすることで、児童が最後まで意欲をもって取り組むことができました。このように、通常の学級でも参考になるような、個を大切にした支援や配慮すべき点がたくさん散りばめられていたことに校内の先生方が気づき、研究会で活発に話し合うことができました。これは、昨年度からUDに取り組み、授業研究会の中で、気がかりな児童に視点を当てて話し合われてきた大きな成果だと考えます。

今までの取組や今後について、校長先生から、次のようなお話をいただきました。

本校が2年前から本格的に始めた「ユニバーサルデザインの視点」を取り入れた授業研究は、児童一人一人にとって分かる、できる喜びを実感できる授業づくりを目指してきた。研究としては、児童の学びに目を向け、課題作りや教材の提示方法、発問や学習形態に至るまで、思考や活動を助ける具体的な手立ての工夫や改善を重ねている。改めて、教育の原点に戻り、教材研究の大切さはもとより、支援の在り方など授業力の向上を目指して努力していただいている。今後、教師一人一人が、新しい時代に向けて育成すべき資質・能力について、共通する明確な見通しを持って取り組み、ますます児童一人一人の個性や能力を伸ばすことができる実践を積み重ねていくことを期待したいと考えている。

（六条小学校 校長 村橋正俊）

授業のユニバーサルデザイン化

特別支援教育の視点からの授業づくり



福井県

平成28年3月に、福井県教育庁高校教育課 特別支援・発達障害児教育グループから、「授業のユニバーサルデザイン化 特別支援教育の視点からの授業づくり」という冊子が各学校に配布されました。

この冊子の特長は、「子どもの実態把握から、という考えに基づいた授業づくり」という点です。児童生徒の気がかりな行動の背景を探ったり、アセスメントをしたりしながら、子どもの実態を把握し、授業の中での支援や配慮のヒントを考えることは、その子を含む学級みんなにとっても分かりやすい授業になるということです。

六条小学校の取組からも、UDとは、「特別支援教育と通常の学級をつなげ、クラス全員が楽しく、分かる・できる授業を作る取組」と言えるでしょう。

読み書きに困難さがある子どものための ICT教材紹介

読み書きに困難さがある小学生・中学生の学習に活用できるアプリを紹介します。



小学校 低学年のお子さんに！

ひらがなトレーニング（明治図書）

通級指導教室などで広く活用されている書籍『読み書きが苦手な子どもへの〈基礎〉トレーニングワーク』のひらがなワークをアプリ化したものです。ことばの教室のノウハウを活かした学習で、ひらがな学習の基礎である「音韻」の力を伸ばす学習ができます。

監修：竹田 契一 氏・村井 敏宏 氏

対応：iOS8.0以降のiPad

価格：¥720

- ◆特長 ・小学校ことばの教室での実践研究をベースにした教材プログラムです。
・目と耳を使って楽しく学習できます。

- ◆収録トレーニング ①「しりとりにあそび」(全75問) ②「おとのある・ないクイズ」(全150問)
③「いくつのおとかな」(全150問) ④「このおとどれだ」(全150問)

◆監修者の言葉

ひらがなの習得の基礎スキルとして音への集中やモーラ感覚の向上をねらって作られたものです。毎日少しずつ学習できるよう 1ステップが10問の構成になっており、小学校の1年生がひらがなを習うのと並行して練習できるようになっています。



中学生の学習支援に！

anki pocket（東京書籍）

価格：アプリは無料（教科書準拠データは有料）

対応機種：Android 4.0.3 以上

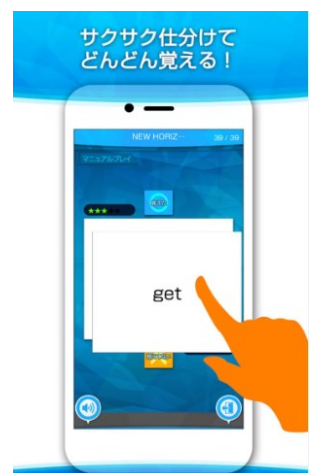
iPhone, iPad, iPod touch (iOS 7以降) に対応

- ◆教科書準拠の有料データ（iOS版：アプリ内課金） ※ android版は 各¥300

- ・中学校社会 重要用語 地理・歴史・公民 各¥360
- ・中学校理科 重要用語 1年・2年・3年 各¥360
- ・中学校英語 NEW HORIZON 単語パック 1年・2年・3年 各¥360
- ・中学校英語 NEW HORIZON 基本文パック 1年・2年・3年 各¥360

- ◆使用方法：例えば英語ではカードの【表】が英語表記と英語音声、【裏】が日本語表記になっており、どちらを先に提示するかを学習前に選びます。
カードをタッチするごとに、【表】と【裏】が入れ替わります。覚えたカードは上に、覚えていないカードは下にフリックして仕分けしていきます。

※ 第83号で紹介した「NEW HORIZON」ドリル・リスニング シリーズは、平成28年4月の教科書改訂に伴い販売が終了しています。anki pocket の有料データは、改定後の教科書に準拠しています。



実践研究発表会のご案内

日常の保育・教育活動等の中で、特別支援教育の視点で工夫し実践している指導方法や内容、特別支援教育に関する意見や情報を交換し、指導の一層の充実を図るため、『実践研究発表会』を開催します。様々な校種等の実践を知ることができる機会となっています。ぜひご参加ください。

日時：平成29年2月10日（金）

会場：福井県特別支援教育センター

☆現在、発表者を募集しています。詳しくは、各学校・機関に配付する開催要項（12月末配付）をご覧ください。また、ホームページでもご案内いたします。

センターだより

すくらむ第86号

発行日 平成28年11月1日
発行所 福井県特別支援教育センター
所在地 〒910-0846 福井市四ツ井2丁目8-1
TEL (0776)53-6574
FAX (0776) 52-6272
E-mail tokuse@pref.fukui.lg.jp
URL http://www.fukuisec.jp

